

ご挨拶

縣神社 宮司 奥村 隆 司

この度田鍬到一前宮司の推挙を受け、責任役員様方のご承認を得まして昨年7月より新たに縣神社の宮司職を仰せつかりました奥村隆司でございます。

戦後の歴代宮司を顧みますと、宗教法人法の下、昭和21年6月ご就任の奥村源三宮司、同36年2月ご就任の恒哉宮司、同40年10月ご就任の郁三宮司、平成8年12月ご就任の田鍬宮司に続き五代目の宮司となります。

源三宮司様より郁三宮司様の皆様と同じ奥村姓ですが遠戚関係ではございません。

我が奥村家は江戸時代には宇治市大久保町鎮座あさくら旦椋神社の社家の一つでありました。

その後、明治維新を経て旦椋神社社掌（宮司）となり、聽て旦椋神社は兼務に、淀の與杼神社よどが本務神社となり、私は淀の生まれ育ちであります。（奥村家はかつて大久保の茶商でありました。）

学歴と致しまして、立命館大学法学部卒業後、國學院大學神道學専攻科（1年間）へ進み、昭和63年4月より伏見稻荷大社に奉職、令和2年9月に退きますまで32年半に亘り、先輩諸兄の教育を受け今日に至っております。

お蔭様をもちまして、このはなさくやひめのみこと木花之佐久夜毘売命様の御神縁を賜りお努めさせて頂けることとなりましたので、素より浅学菲才の身であり、微力ではありますがご社頭の護持と発展に専念致す所存でございますので、前宮司同様に一層のご厚誼とご教導賜りますようお願い申し上げます。



恒例

年始の振舞い (抹茶ぜんざい)

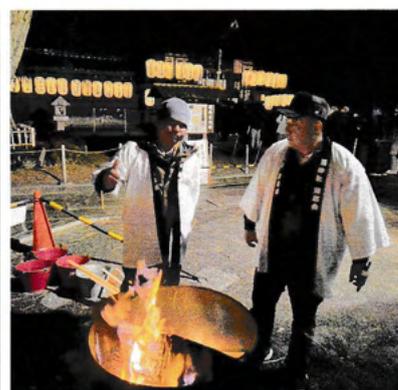
—— 縣神社 開耶会 主催 ——



令和6年^{きのえたつ}甲辰歳の幕開け。

縣神社^{さくや}開耶会では初詣参拝者への振舞いを行いました。例年の周知活動を通じて少しずつ知られるようになり、今年は大盛況。500名様分用意した「抹茶ぜんざい」も僅か2時間余りでなくなり、幸先の良い一年の始まりになりました。

また、本殿前の初詣参拝者も列をなし、雨の後にもかかわらず多数お詣りになり、手水舎の花手水も新年に相応しい晴れやかさを演出していました。



縣神社の年中祭祀



初あがた祭

毎年新年の1月5日、子供神輿、獅子舞（3基）が中宇治地域を巡幸、門付で回る。江戸時代から連綿と受け継がれる神社にとって重要な祭事となっている。

節分祭

2月3日の節分の日に厄除・招福を祈念する。令和6年より伊勢大神楽佐々木金太夫講の獅子舞を奉納。

あがた祭

6月5日午前より6日未明にかけて行われる祭礼。5日の朝御饗祭、夕御饗祭（大祭式）に続き、6日未明に平成15年に発足した梵天講が古儀に従い、遷座祭ののちクライマックスの梵天渡御を行う。



大幣神事

歴史は古く、宇治市の無形文化財第1号に指定された神事。6月8日大幣座により、宇治の町角々を祓う神事を執り行う。疫病が町に入らないよう道饗祭みちあえさいを執り行う。



献茶祭

11月5日午前、宇治の茶師による茶壺口切式、藪内流家元の御献茶式に続き、宮司の祝詞にて宇治茶の隆盛と茶文化の護持を祈念する。

事始め（注連縄奉製）

京都では正月の準備を始める12月13日の夜、新年に向けて太注連縄7本、細注連縄を篤信者が緋る。12月17日に各社殿や御神木にあげられた。

神社の動静



《令和5年》

6月30日 田鍬宮司退任

7月1日 奥村宮司就任

9月15日 拝殿、門帳、壁代新調 ①②

9月19日 自販機(神徳宣揚版)設置 ⑧

11月5日 真榊新調(献茶祭に併せ) ③

神前献饌案新調(同、2台)

11月15日 神徳宣揚幟掲出 ④

12月20日 境内案内看板設置(2ヶ所) ⑤⑥

《令和6年》

3月5日 雪洞修繕(3月月次祭に併せ) ⑦

2月・3月 境内・茶庭 樹木剪定



奉納

《縣神社》

令和5年

12月17日 本殿 鈴緒 ①
入江宗輔

令和6年

2月14日 稻荷社鳥居、境内西鳥居塗替え ③④
(旧初縣) 株式会社下岡建設 下岡智也
(施工奉納 株イケモト 池本昌浩)

毎月5日 献酒各一升 ⑥

(月次祭) 今西正二税理士事務所 今西正二
すし勝 梅原正哉

《下居神社》

令和5年

11月23日 本殿、末社、鈴緒 ②
上林信良

令和6年

1月1日 本殿紫の御幕 ⑤
有限会社キタムラ 北村健造
若山時計店 若山正信

